

# 第69回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第90回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会岡山県代表決定戦

## 女子決勝

日 時	2023年8月27日(日) 15:00~		
会場名	笠岡総合体育館	(B)コート	

就実高校	61	}	18 — 19 17 — 24 12 — 31 14 — 9	}	83	環太平洋大学
------	----	---	---	---	----	--------

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
丸山 ほのか	4	9	3			2	藤園まりな	1	0				
小田 さくら	5	7		3	1	1	崎生菜花	3	9	2	1	1	3
大橋 萌加	6	15	2	2	5	2	森涼香	7	3		1	1	1
水嶋 凜奈	7	12		5	2	4	石田千尋	11	0				1
岡本 唯里	8	18		6	6	1	志方真由	12	0				
芳賀 心紅	9	0					春日美津紀	14	0				
綱島 菜ノ花	10	0					大西こはる	16	10	2	1	2	2
元部 直	11	0					島田光理	20	0				
亀浦 実娘	12	0					鈴木愛梨	22	6	2			1
中野 侑実	13	0					田嶋成実	27	0				
杉浦 優芽	14	0					長谷川 優羽	35	5	1	1		
原淵 清美	15	0					有吉静流	51	5	1	1		4
		0					片岡瑠稀	70	29	3	8	4	1
		0					中元優来	75	12		5	2	1
		0					井上日湖	87	4		1	2	
		0					家本 彩海花	89	0				
合 計		61	15	32	14	10	合 計		83	33	38	12	14

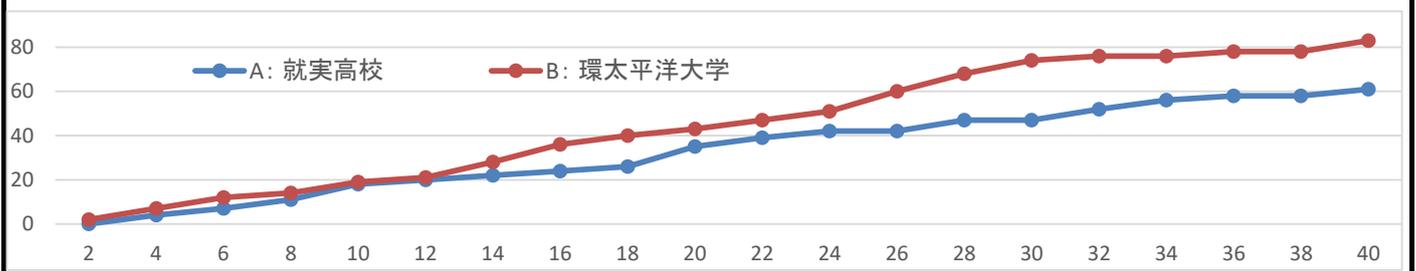
### 戦 評

第1Q、就実マンツーマン、環太平洋は2・2・1ゾーンプレスとハーフからの2・3ゾーンの併用で始まる。環太平洋は#70#16のドライブで先制。その後も#70がドライブや3Pを決めるなどし、ゲームの主導権を握るが、就実#4の3Pや#8のジャンプシュートで入れ返す。終了間際で就実の#6が3Pを決め、環太平洋19-18就実で1Qが終了。

第2Q、出だし環太平洋はハーフからのディフェンスをマンツーマンに切り替える。就実のターンオーバーから#75がゴール下を決め、その後も#75がゴール下を支配し、その後#70がバスケットカウントを含む3連続ドライブでシュートを決め、環太平洋30-22就実としたところですかさず就実タイムアウト。タイムアウト後、就実#8がジャンプシュートやフリースローを決めるなど、環太平洋は#3や#70が連続3P、#51もリバウンドシュート決めるなどするが、就実も#6が3Pを入れ返し、#8がフリースローを連続4本決めるなど主導権を握らせまいと抵抗し環太平洋43-35就実で2Q終了。

第3Q、#70のドライブに対するディフェンスを就実が厳しくするが#70のキックアウトから#51がコーナーから3Pを決める。その後も#70のドライブからファウルを誘いフリースローを沈め#22や#16の連続3Pで突き放そうとする。さらに環太平洋#3と#16が連続3Pで差を広げた。対する就実インサイドプレーを試みるが、得点にはつながらず#8がドライブとフリースローを沈めるにとどまり、3Qは環太平洋74-47就実で終了。

第4Q、就実#7のドライブからのジャンプシュート、#4も厳しいマークからの3Pを決め、#8もパスカットから速攻を決め、#6もドライブをねじ込むなど抵抗をしたが、環太平洋は#75がゴール下を決め、#35もコーナーからミドルシュートを放つなど反撃を寄せ付けない。就実#4がコーナーから3Pを決めたところでディフェンスをオールコートに切り替えボールを奪おうとするが、落ち着いてボールを回した環太平洋がリードを保ったまま環太平洋83-61就実で逃げ切り、環太平洋は9年振り8回目の優勝を飾った。



# 第69回岡山県総合バスケットボール選手権大会 兼第99回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会岡山県代表決定戦

## 男子決勝

日 時	2023年8月27日(日) 15:00~		
会場名	笠岡総合体育館	(A)コート	

ファイサンス岡山	53	}	13 — 13 8 — 16 26 — 14 6 — 12	55	A B F
----------	----	---	--	----	-------

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
木岡 裕太	0	0					片山 大地	3	0				
佐藤 朋信	1	2		1		3	森川 純平	5	12	1	2	5	2
大橋 雄太	2	0					米村 誠志郎	7	5		2	1	4
林野 由幸	3	4		2		1	井上 亮	8	0				
中西 祥一朗	6	5	1	1			前田 涼太	11	11		5	1	3
奥山 瑛介	7	0					高原 優一	12	3		1	1	4
大野 力	10	0					城間 建伍	13	13		5	3	1
秋岡 和典	13	11	1	4		2	土家 明大	14	4		2		
谷口 巨将	14	0					田淵 悠人	19	0				
石原 健一郎	18	11	1	4		2	岩崎 亮斗	22	7	1		4	
三上 祐世	25	5		1	3	2	川原 一仁	88	0				
青木 龍之介	33	0							0				
岸本 祐也	35	9	1	3		3			0				
藤高 竜一	45	0							0				
難波 遥希	61	6		2	2	4			0				
小原 一輝	77	0							0				
合 計		53	12	36	5	17	合 計		55	6	34	15	14

**戦 評**

1Q 両チームともマンツーマンディフェンスで試合開始。お互い様子を見ながらのスロースタートとなり、残り8分ABF#11がドライブにより先制、続けて#22も3Pを決める。ファイサンスは#35を起点にアウトサイドのシュートを試みるが、なかなか得点を決めることができず重い立ち上がりとなる。残り5分、ファイサンスは#3がインサイドのシュート、その後#35が3Pを決め応戦する。高さに勝るABFは得たフリースローを着実に決めていき、残り1分で4点リードする。残り1分を切ったところで、ファイサンスは#61が連続得点し、ファイサンス13-13ABFの同点で1Q終了。

2Q 早々にABF#14がジャンプシュートを決め、リードする。ABF#13がオフェンスリバウンドを頑張り連続得点で主導権を握る。一方ファイサンスは#13が素早いボール運びで応戦し、#3、#18が得点を決めて応戦し、残り5分ファイサンス17-21ABFとなる。残り4分から、ABFはファイサンスのパスを狙ってスティールを立て続けに得点につなげ、残り2分で12点のリードを奪う。ファイサンスも粘り強く#13、#18がリバウンドから得点につなげ、ファイサンス21-29ABFで前半を折り返す。

3Q 両チーム引き続きマンツーマン。ファイサンスは#13のドライブ、3Pの連続得点で追い上げを開始する。ABFも#5のインサイドを中心に応戦するが、ファイサンスは#35や#18の得点で食い下がる。その後、一進一退の攻防が繰り広げられ、残り3分ファイサンス39-43ABFとなる。その後、ファイサンスはディフェンスでプレッシャーをかけ、#25のフリースロー、その後の#6の3Pで同点に追いつく。その後も#25が、速攻、フリースローを確実に決め、逆転に成功し、ファイサンス47-43ABFで3Q終了。

4Q 開始早々ファイサンスは#1の速攻レイアップでリードを広げる。両チームとも厳しいディフェンスから、リバウンドを抑え、お互いに3分間無得点の状態が続いた。その後、ABFが#12のフリースロー、ファイサンスが#13のミドルでそれぞれ得点し、残り3分ファイサンス51-46ABFとなったところで、ABFが#5のインサイドプレイで得たフリースローを確実に決め、追い上げを開始する。ファイサンスは#6がリバウンドからのシュートを決めるなどリードを保とうとするが、ABFは#13、#11のインサイドプレイで差を縮め、残り1分ABF#5がフリースロー沈め、同点に追いつく。その後、両者激しい攻防を繰り広げたが、ABF#11が、1on1から得点した2点を守り切り、ファイサンス53-55ABFでABFが初優勝を果たした。

